

本学学生の生活実態調査 V

— マナーに関して —

Fact-finding Research into Our Junior College Students on Daily Life V

山口修司 田中美季 坪田雄二
松原勝敏 湯川秀樹

近年、公的な場での、若い世代のマナーが、非常に悪くなってきているといわれる。彼らは、自分のことしか考えない、思いやりにかけているなど様々な形容詞で表現される。しかし、こういった若者のマナーの悪さは最近始まったことなのだろうか。また、今の若者にのみ見られることなのだろうか。それとも、遥か昔から、どんな若者も若い故に、年配者に、「今の若い者のマナーはなっていない」と言われ続けているのだろうか。このように考えると、最近の若者とマナーの悪さを早急に結びつけることは、非常に難しいことがわかる。

さらに、マナーに関する論議の大部分は、若者以外の人によってなされることが多い。したがって、そこには若い世代の視点が欠けていることも否定できない。たとえば、若い世代は、自分たちのマナー行動を一体どのように見ているのかを考えてみよう。彼ら自身が、自分たちのマナーは、正しいと思っている場合と、年配者がいうように間違っていると見ている場合とでは、行動として現われるマナーは同じでも、両者は大きく異なっている。すなわち、年配者と若者とのマナー行動に対する意識にずれがあるのか、あるいはないのかが重要なキーポイントとなるだろう。こういったマナー行動とそれに関する意識を考慮することは、マナー自体を考えていくうえで、非常に重要なことであろう。

本研究は、上述の若い世代のマナー行動に関する意識と実際の行動とを調査する目的をもつ一連の研究の一つである。特に本研究では、日常生活において若者がどの程度マナーにあった行動をしているのかを、明らかにすることを目的とした。さらに、実際の日常生活では、様々なマナーが要求されるため、山田・坂田(1991)に従い、マナー行動を8つの領域に分け、それぞれについて詳細に検討する。

方 法

被調査者 研究Ⅰ参照。

調査期間 研究Ⅰ参照。

調査手続 研究Ⅰ参照。

調査項目 表1に示すように山田・坂田(1991)によるマナー行動調査の25項目を、本学の状況に合わせて若干修正し、用いた。これらの質問項目は、学生の日常生活で比較的頻繁に起こると考えられる8つの領域、すなわちA. 授業中の態度、B. 休憩中の教室・研究室内の行動、C. 学食内での行動、D. 教師に対する態度、E. バス・電車内での腰掛け方、F. 歩行中の態度、G. 電車・バスに乗る時の傘の取扱い、H. 自転車・バイク・自動車などの駐車に関するマナーを調べる目的で作成されたものである。

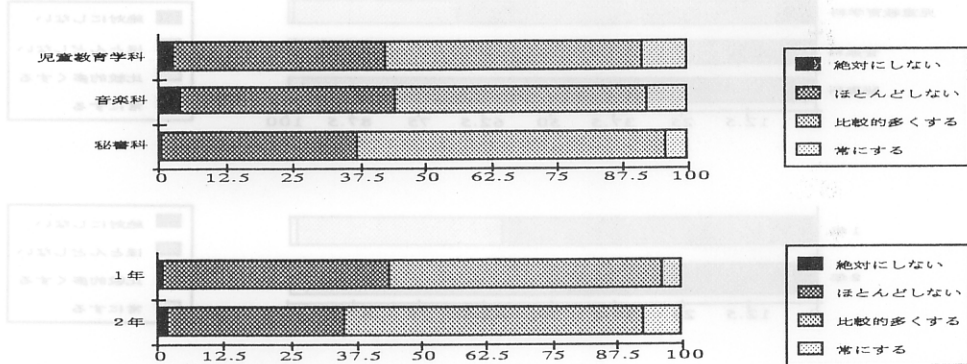
表1 調査で使用された質問項目

	し絶 な対 いに	しほ とん んど	す比 較的 多く	常 に する			
A. 授業中の態度について							
私語をする	1	—	2	—	3	—	4
居眠りをする	1	—	2	—	3	—	4
他の科目のレポート作成などをする	1	—	2	—	3	—	4
雑誌・マンガなどを読む	1	—	2	—	3	—	4
机にいたずらをする	1	—	2	—	3	—	4
B. 休憩中の教室・研究室内の行動について							
タバコを吸う	1	—	2	—	3	—	4
紙屑などの投げ捨て	1	—	2	—	3	—	4
空缶の置き去り	1	—	2	—	3	—	4
机に座る	1	—	2	—	3	—	4
C. 学食内での行動について							
割り込んで食券を買う	1	—	2	—	3	—	4
混んでいる時でも椅子に荷物を置く	1	—	2	—	3	—	4
食券を何人分かまとめて買う	1	—	2	—	3	—	4
椅子を片付けずに立ち去る	1	—	2	—	3	—	4
D. バス・電車内での腰掛け方について							
足を組む	1	—	2	—	3	—	4
股を拡げる	1	—	2	—	3	—	4
混んできたら自発的に席をつめる	1	—	2	—	3	—	4
声をかけられれば席をつめる	1	—	2	—	3	—	4
E. 歩行中の態度について							
狭い道を並んで歩く	1	—	2	—	3	—	4
他の歩行者の前を急に横切る	1	—	2	—	3	—	4
他の歩行者を押しつけて先に進む	1	—	2	—	3	—	4
狭い道で対向者に道を譲らない	1	—	2	—	3	—	4
赤信号を無視する	1	—	2	—	3	—	4
F. 電車・バスに乗るときの傘の取扱いについて							
車内にぬれた傘を持ち込むとき、周囲の人に当たらないよう気をつける	1	—	2	—	3	—	4
G. 自転車・バイク・自動車の駐車について							
禁止場所への駐車							
H. 教師に対する態度について	1	—	2	—	3	—	4
講義以外の場でも挨拶をする							
1. 必ず積極的にする 2. 目が合ったらする 3. ほとんどしない 4. 全くしない							

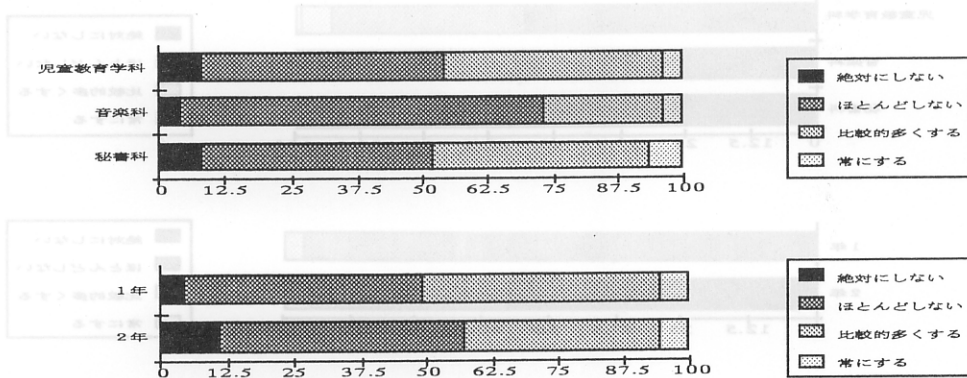
結果および考察

各質問項目について、学年、学科ごとに各選択肢を選んだ人数の割合を算出し、構成比率とした。図1～図25は、各質問項目ごとに構成比率をグラフ化したものである。以下、この図を参考にしながら、各質問項目の結果とそれに関する考察を述べる。

(1) 私語をする



(2) 居眠りをする



(3) 他の科目のレポート作成などをする

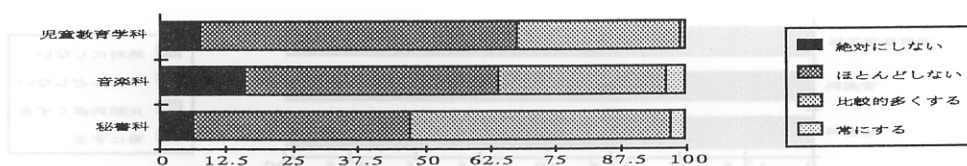
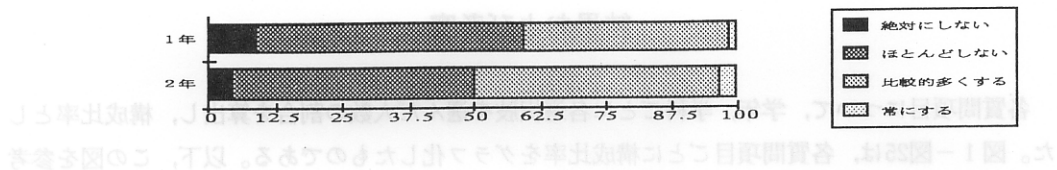
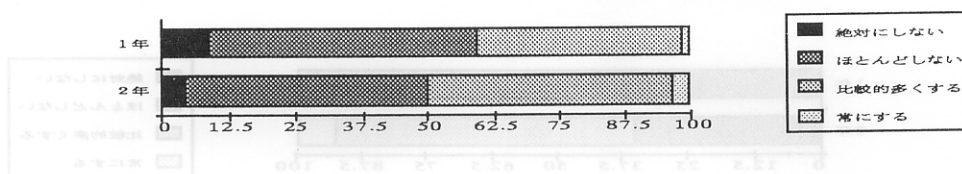
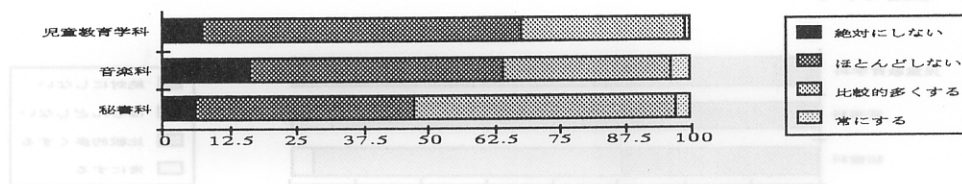


図1 A「授業中の態度について」



(4) 雑誌・マンガなどを読む



(5) 机にいたずらをする

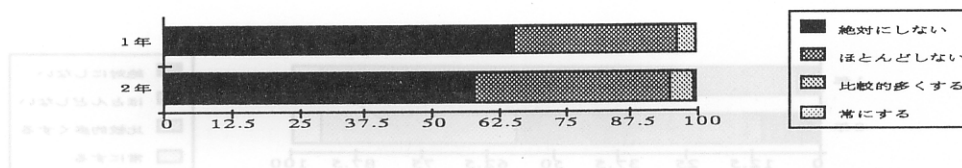
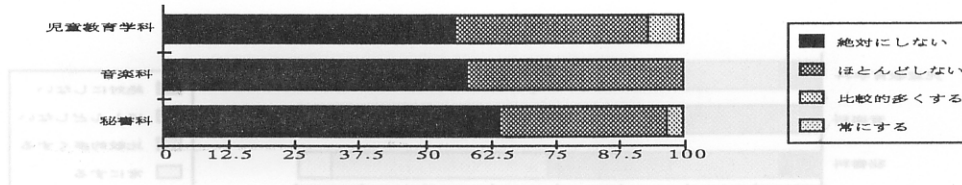


図1 A「授業中の態度について」

(1) タバコを吸う

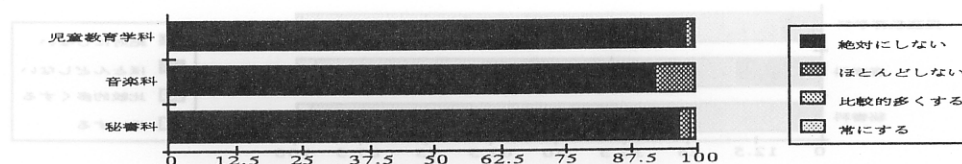
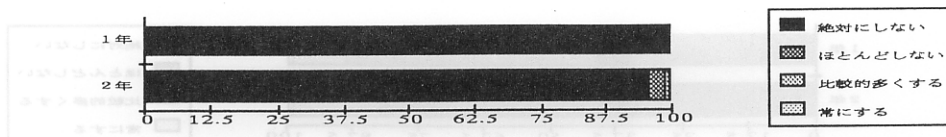
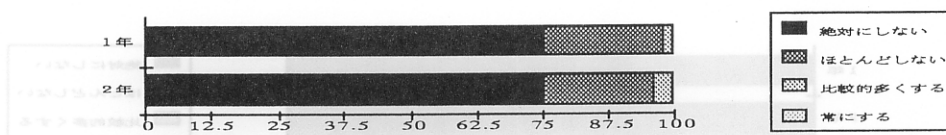
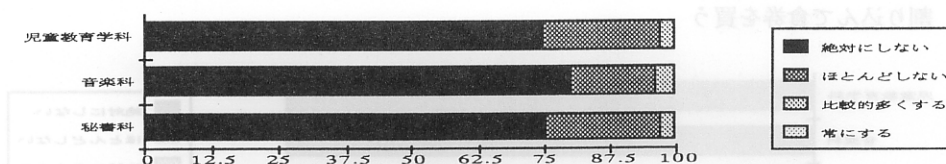


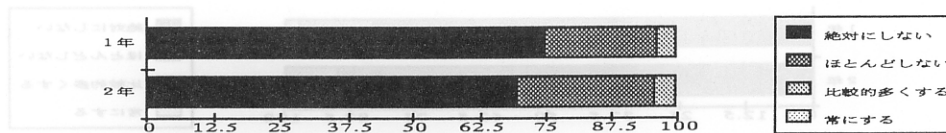
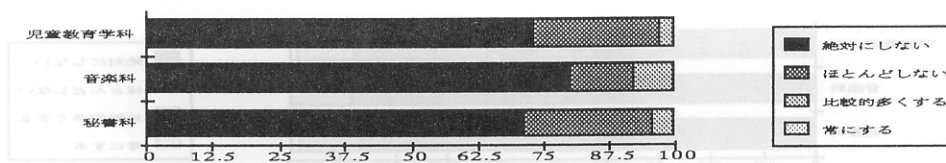
図2 B「休憩中の教室・研究室内の行動について」



(2) 紙屑などの投げ捨て



(3) 空缶の置き去り



(4) 机に座る

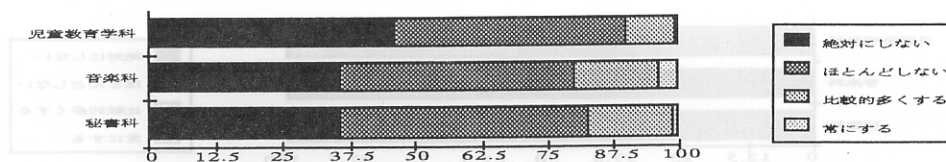


図2 B「休憩中の教室・研究室内の行動について」

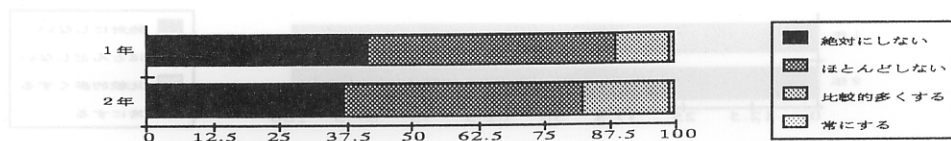
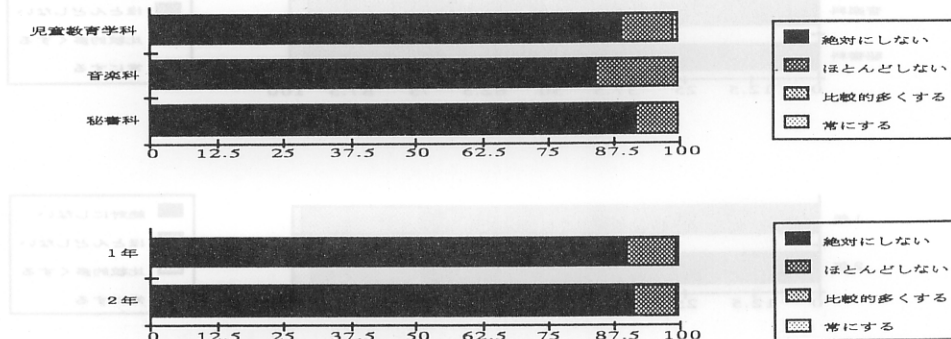
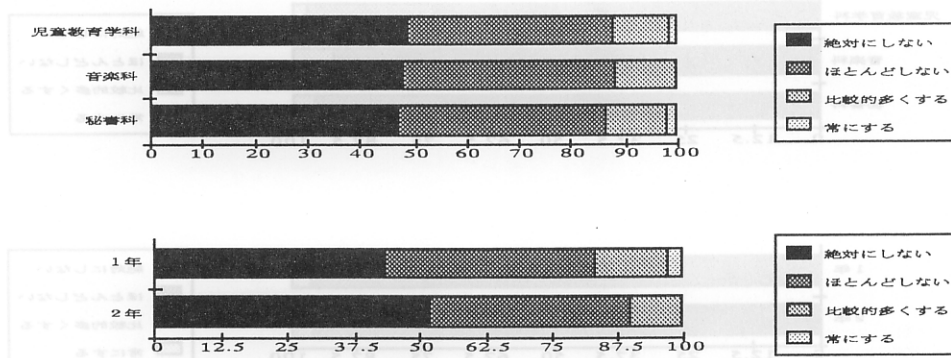


図2 B「休憩室の教室・研究室内の行動について」

(1) 割り込んで食券を買う



(2) 混んでいる時でも椅子に荷物を置く



(3) 食券を何人分かまとめて買う

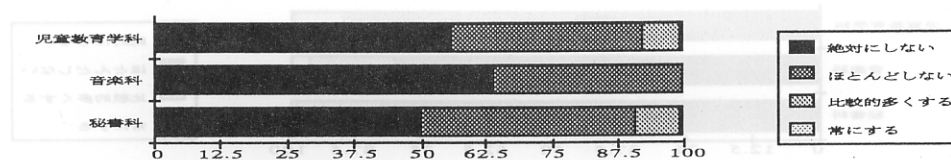
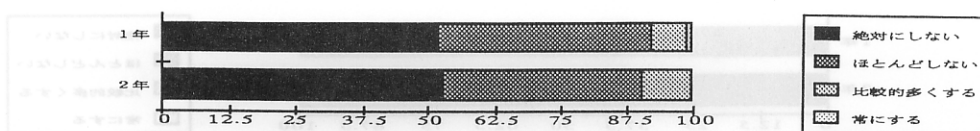


図3 「学食内での行動について」



(4) 椅子を片付けずに立ち去る

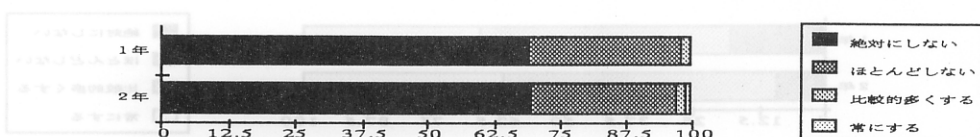
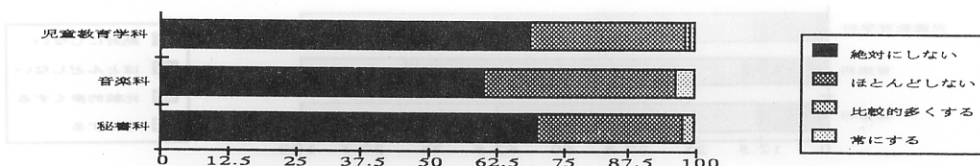
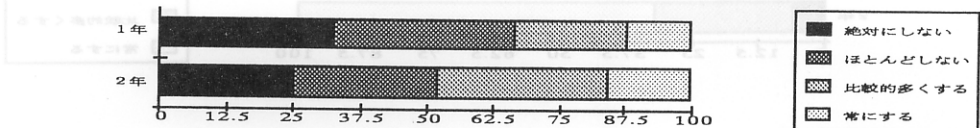
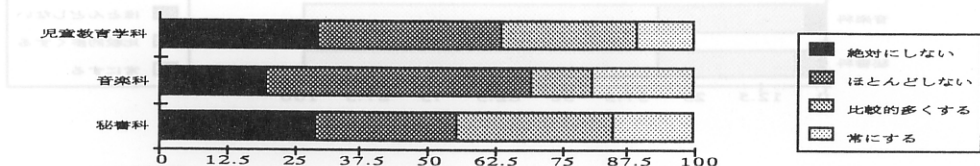


図3 「学食内での行動について」

(1) 足を組む



(2) 股を拡げる

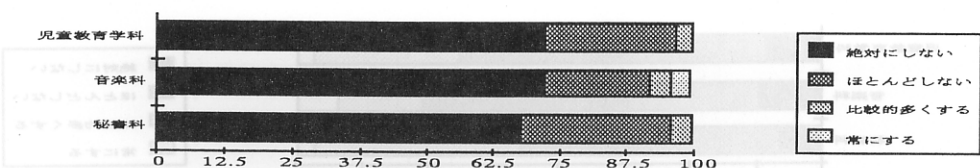
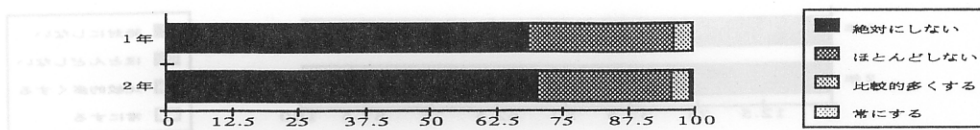
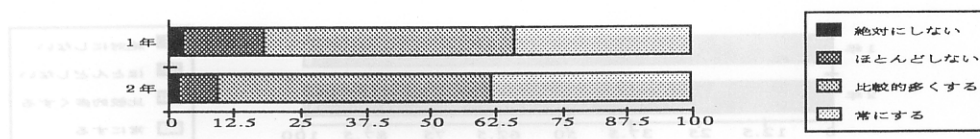
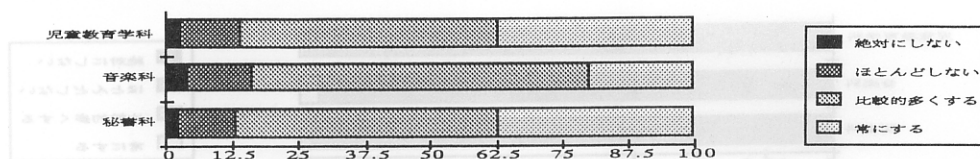


図4 「バス・電車内での腰掛け方について」



(3) 混んできたら自発的に席をつめる



(4) 声をかけられれば席をつめる

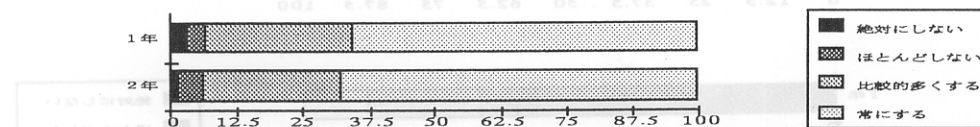
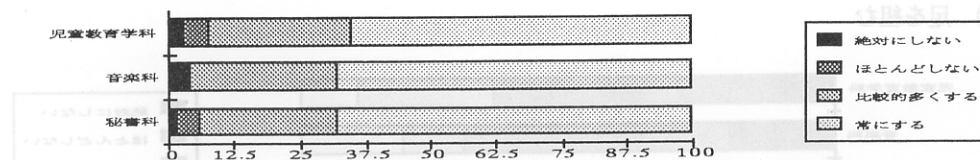


図4 「バス・電車内での腰掛け方について」

(1) 狭い道を並んで歩く

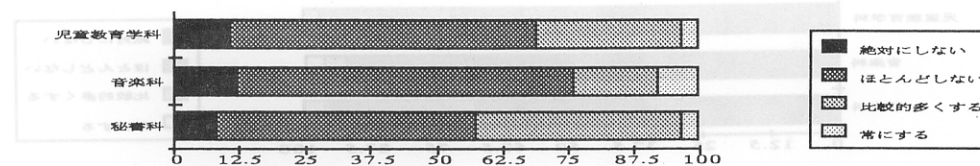
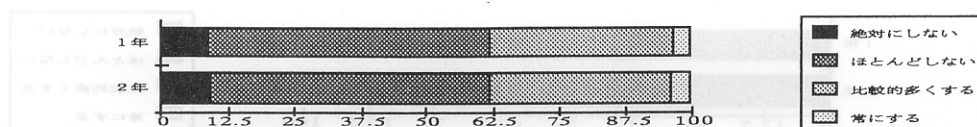
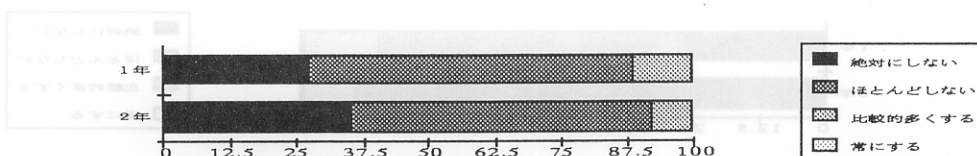
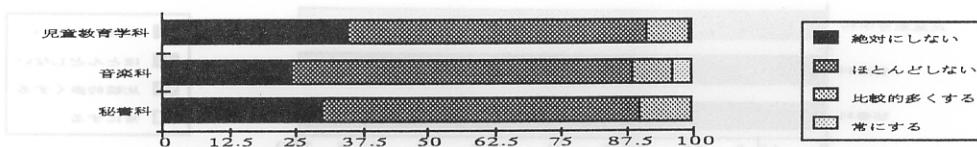


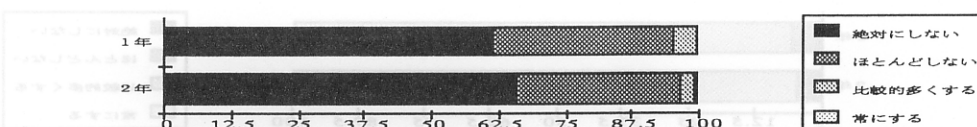
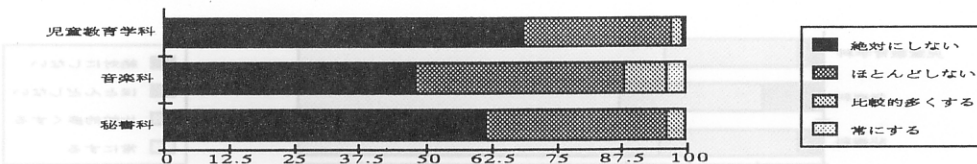
図5 「歩行中の態度について」



(2) 他の歩行者の前を横切る



(3) 他の歩行者を押しのかけて先に進む



(4) 狭い道で対向者に道を譲らない

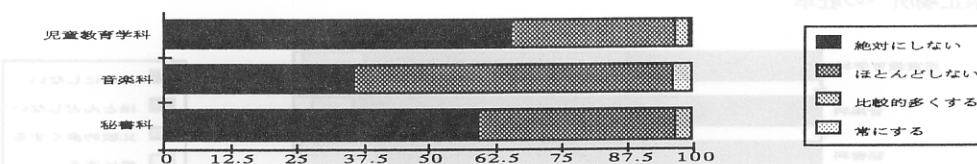
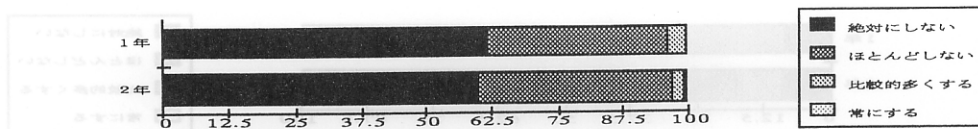


図5 「歩行中の態度について」



(5) 赤信号を無視する

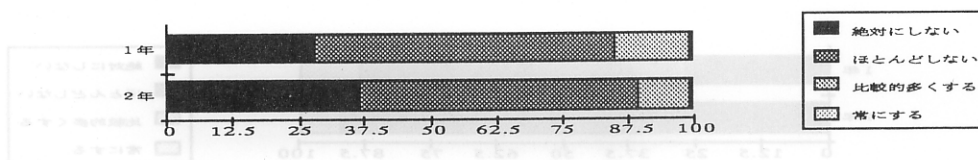
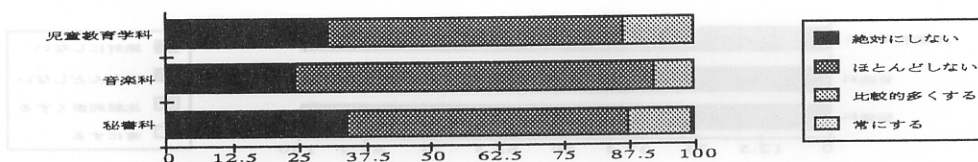


図5 「歩行中の態度について」

車内にぬれた傘を持ち込むとき、周囲の人に当たらないよう気をつける

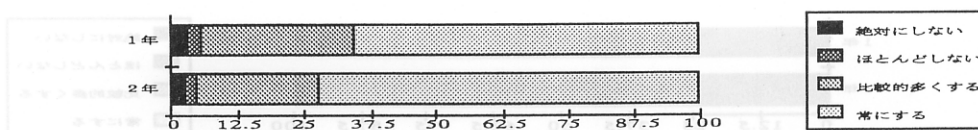
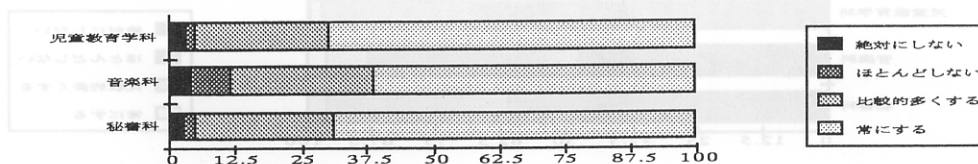
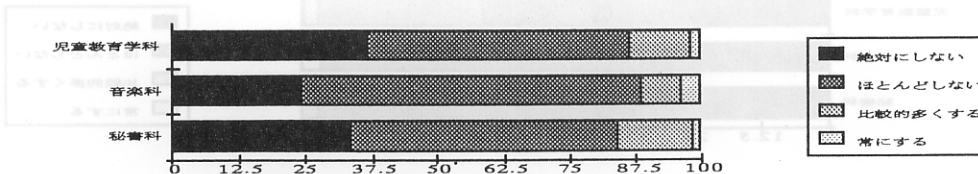


図6 「電車・バスに乗るときの傘の取扱いについて」

禁止場所への駐車



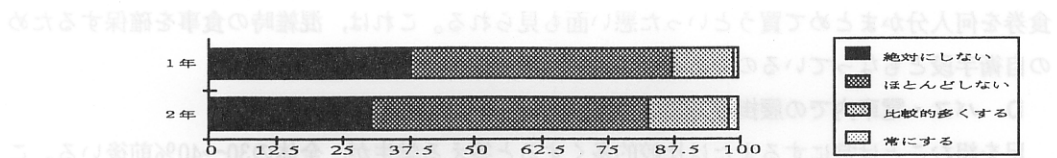


図7 「自転車・バイク・自動車の駐車について」

講義以外の場でも挨拶をする

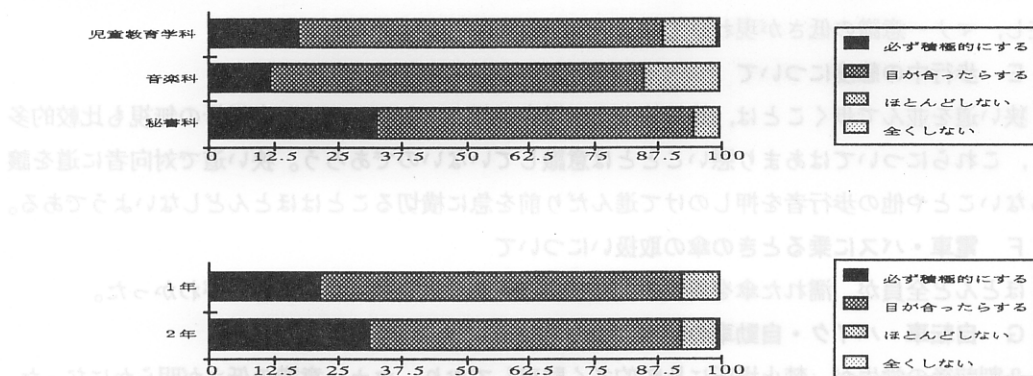


図8 「教師に対する態度について」

A 授業中の態度について

各学科とも、授業中に私語をしたり、居眠りをする割合は90%を越えており、他の科目のレポートを作成したり、雑誌・マンガを読む割合は80~90%にも達している。机にいたずらをする学生はほとんどいないが、授業中の態度としてはほとんどの学生がよくないと言えるだろう。しかも、この結果は授業中の実際の彼らの行動と一致しており、彼らは十分自分の行動の自覚をもっていると考えられる。

B 休憩中の教室・研究室内の行動について

ほとんどの学生は喫煙していないが、2年生が1年生よりも多いといった学年間で違いが見られる。紙屑などの投げ捨てや空缶の置き去りに関しては、全学生の3分の2以上が絶対にしないと答えているが、残り3分の1が回数としては少なくとも投げ捨てや置き去りをしていることになる。これは、研究室や教室のごみ、空缶などの散乱状態を考えると、非常に納得のいく結果であろう。机に座るについては、絶対にしないと答えている学生が4割前後であり、机に座ることはあまり悪いことではないという意識が認められる。

C 学食内での行動について

割り込んで食券を買うことや椅子を片付けずに立ち去ることは、ほとんど全員の学生がしていないといったようにマナーとしては良い反面、十数パーセントの学生が椅子に荷物をおいたり、

食券を何人分かまとめて買うといった悪い面も見られる。これは、混雑時の食事を確保するための自衛手段ともなっているであろう。

D バス・電車内での腰掛け方について

足を組むことは常にするまたは比較的多くすると答える学生が、全体の30～40%前後いる。これは足を組むことがマナーに反しているとあまり意識していないためと考えられる。これとは反対に、股を拡げることを絶対にしない学生の割合は、ほぼ7割に達しており、それをあまり良いことではないと感じていることがわかる。混んできたなら自発的に席をつめるおよび声をかけられれば席をつめる項目では、10%未満ではあるが絶対にしない、ほとんどしないと答える学生が存在し、マナー意識の低さが現われている。

E 歩行中の態度について

狭い道を並んで歩くことは、比較的多くの学生が行っており、ついで赤信号の無視も比較的多く、これらについてはあまり悪いこととは意識していないのであろう。狭い道で対向者に道を譲らないことや他の歩行者を押しつけて進んだり前を急に横切することはほとんどしないようである。

F 電車・バスに乗るときの傘の取扱いについて

ほとんど全員が、濡れた傘を周囲の人に当てないように気をつけていることがわかった。

G 自転車・バイク・自動車の駐車について

2割前後の学生が、禁止場所に比較的多く駐車しており、マナー意識の低さが明らかになった。

H 教師に対する態度について

挨拶を必ず積極的にする学生は、4分の1にも達しており、目が合ったらすると合わせるとほとんど全員が、何らかの挨拶をしていると考えられる。

引用文献

山田知恵子・坂田四郎 1991 マナーに関する調査・研究 東海大学紀要 教育研究所（学生生活部門），第21輯，49-64.

高松短期大学研究紀要

第 24 号

平成6年1月31日 印刷
平成6年1月31日 発行

編集発行 高松短期大学
〒761-01 高松市春日町960番地

TEL(0878)41-3255

FAX(0878)41-3064

印刷 高東印刷株式会社
高松市東山崎町596番地